

第1回まちづくりにおける駐車場施策のあり方検討会 施設デザインWG 議事要旨

1. 日時

令和5年10月17日(火) 午前9時30分から午前12時まで

2. 場所

中央合同庁舎3号館6階都市局議室

3. 出席委員 (※はWEB参加。★は委員代理))

(有識者)

座長 大沢 昌玄 日本大学工学部土木工学科 教授
小嶋 文※ 埼玉大学理工学研究科環境科学・社会基盤部門 准教授

(関係団体)

善本 信之 一般社団法人全日本駐車協会 専務理事
岡部 達郎 公益社団法人立体駐車場工業会 事務局長
亀村 幸泰※ 一般社団法人日本自走式駐車場工業会 専務理事
山本 稔★ 一般社団法人日本パーキングビジネス協会 事務局長
谷川 浩 一般財団法人日本自動車研究所新モビリティ研究部 研究主幹
荻津 和良 社会福祉法人日本身体障害者団体連合会 理事
松田 妙子※ 特定非営利活動法人子育てひろば全国連絡協議会 理事
特定非営利活動法人せたがや子育てネット 代表理事

(地方公共団体)

木村 さやか★ 東京都都市整備局 都市基盤部交通企画課 課長代理(交通戦略担当)
前田 美知太郎★ 千代田区環境まちづくり部 景観・都市計画課長
近藤 陽介※ 金沢市都市政策局 担当局長(兼)交通政策課長
津島 秀郎※ 神戸市都市局都心再整備本部 事業推進担当部長
吉田 哲雄※ 和歌山市都市建設局 都市計画部長

4. 議事

(1) 事業者からの情報提供

① 株式会社GOURIKIコーポレーション 山崎氏より「時間貸し駐車場DX」
情報提供

② ユアスタンド株式会社 浦氏より「2030年を目指した駐車場GXについて」
情報提供

(2) 事務局説明

事務局より資料 2 を説明

(3) 意見交換

5. 主な意見

【多様な利用ニーズへの対応について】

- まちづくりの観点からは、まちなかの外側の駐車場に停めて、子供を含めて人々がまちなかを安全に散策したり、交流したりできると良いのではないかと。駐車場で待ち合わせが出来ると、出かけやすくなるのではないかと。
- バリアフリー等の社会の変化に対応した駐車場について、新設の際は対応しやすいが、これまでストックされてきたインフラをいかに活用していくかが大切。ガイドラインには、既存のストックでも柔軟に対応できるような記載も必要。例えば、既存駐車場は古いために車室が狭く、柱の間隔も狭いため、バリアフリー化をしようとすると奥行きが足りないなどの問題があり、進んでいない。幅を広げたりすると駐車マスを減らしてしまう難しさもある。
- 子ども、身障者の方、高齢者の方、免許取りたての方など、多様な利用者のニーズや車種に合わせるには、余裕を持った駐車スペースの基準を設定すべき。また、優先駐車区画についても増やして欲しい。
- 障害者差別解消法やバリアフリー法、パーキングパーミット制度なども含め、制度の周知・啓発活動をする際は、なるべく行政用語ではなく、わかりやすさを重視して欲しい。
- バリアフリーについて、建築物に附随する駐車場の場合と附随しない場合の平面駐車場で基準が異なるなど、制度が縦割りでわかりにくく、事業者も推進しにくい。
- 都心部では荷さばきが大きな課題で、荷さばきの需要があるところには駐車場がないというのが課題。フリンジ（外側）の駐車場も重要であるが、ニーズのあるところに作ることも重要。多様な方が使いやすい駐車場について、コインパーキングを含め関係団体とも協力して進めていく必要がある。

【駐車場施設の高度化について】

- まちなかへの車の流入抑制や公共交通の利用促進の観点から、パーク＆ライド駐車場の利用を推進していく際に、そのような誘導したい駐車場に望ましい設備や機能など、利用しやすい駐車場についてガイドラインがあると良いのではないかと。
- 今のガイドラインにも環境や防災などの事例の記載があるが、それらの効果が示されるとわかりやすくなるのではないかと。
- EVの充電をする人が駐車場を使う際の行動がどうなるのかは意識しておく必要がある。より長くまちに滞在したり、歩く距離が伸びたりするなど、外出時に停める際の行動が変わってくる可能性もある。
- EVの充電口の場所が車によって異なることについて、機械式駐車装置への充電器設置

の際の課題や利用者の利便性も含め、社会的コストを考えると、統一されることが望ましい。

- 機械式駐車装置における EV 充電器の設置について、車両の重量の問題と給電口の問題に加えて、機械式駐車装置メーカーと連携せず、勝手に充電器を取り付ければ事故の危険性もある。
- EV 充電器の設置を推進している自治体の導入実績や問題点、課題を把握していくとよいのではないかと。
- 防災の観点も必要ではないか。防災支援物資の備蓄や災害時の避難施設など、災害時に有用な駐車場について認定制度があると、社会貢献活動へのインセンティブになる。
- 自動車産業と駐車場事業者はこれまで関わってこなかったが、自動車産業が百年に一度の変革期にある中で、自動車メーカーが駐車場の議論に関わることで、車の使い方、まちのあり方、さらには人々の生活や価値観の変化に対応する施策につなげられるのではないかと。

【情報発信、案内・誘導の高度化について】

- 魅力的な駐車場について、停めに行こうと思えるような情報発信が重要になる。
- 駐車場の情報について、対応車種を含めて提供する情報の統一化も必要であるが、そもそも、データを提供する前の各駐車場事業者が異なるフォーマットで情報を収集しているため、統一的な指針が必要。運営事業者の変更や、システム変更により、情報フォーマット変更にかなりの費用が発生している場合もある。
- 駐車場運営事業者はアナログなところもあるが、IT 企業が参画するなどして駐車場のデータ収集は進んでおり、DX の推進が出来るような仕組みの構築や、全国的な取組も協力していきたい。

以上